

2-2. 重要業績評価指標(KPI)評価

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
2	ボランティア団体数		団体	21	21	21	21	21	21	100.0%	
						21	21	21	21	26	
	《成果指標の進捗状況》					担当課		福祉課			R2
	・達成状況 ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	地域における支え合いの活動については、「みんなでささえるプラン」に基づき事業を遂行しており、地域に根ざした福祉活動の円滑な実施に向け、社会福祉協議会をはじめとする社会福祉法人やNPO法人、ボランティアグループ等と連携して活動支援を行うこととしている。										A
	さらに、社会福祉協議会にボランティア団体の事務局機能を担ってもらい、有償ボランティア事業や介護予防ポイント制度の導入により、地域のちょっとした困りごとは地域で解決できるような仕組み作りも行っている。新上五島町ボランティアセンター(社協)には、令和6年度は個人66人、団体26グループの登録があり、63件のボランティア依頼に対して、延べ201人がボランティア活動を実施している。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										A
	<u>①課題</u>										R5
	「みんなでささえるプラン」に掲げた施策を基本とし、地域に根ざした福祉活動を円滑に行えるよう、ボランティア団体の事務局機能の充実と、ボランティアの養成に重点を置き、様々な特色の活動団体との連携と若い世代を巻き込んだ地域を支える活動を推進していく必要がある。										A
<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										R6	
活動中のボランティア団体については必要な支援を継続していく。また、「互助・共助」にあたる地域の悩みを地域で解決できる仕組みづくりと、そこで活躍するボランティアの養成を推進していく。										A	

2-3. 重要業績評価指標(KPI)評価

※No. に☆印がついた目標はH30からの伸び幅を比較し達成率とする。

No.	指標名	指標の内容	単位	H30 基準値	実績値の推移 上段:目標値/下段:実績値					達成率	
					R2	R3	R4	R5	R6		
3 ★	見守りネットワーク地区数		地区	8	8	8	10	12	14	0.0%	
						8	8	8	8	8	
	《成果指標の進捗状況》					担当課		福祉課			
	・達成状況 ⇒ <input type="checkbox"/> 実績が目標を達成した・上回った <input checked="" type="checkbox"/> 実績が目標を下回った										A
	<u>①取組状況、結果、分析</u> ※実績が目標を下回った場合はその理由を必ず含めてください。										R3
	高齢化により、見守り対象者が増加する一方、見守り協力員数は停滞している。一人当たりの負担増や、見守り対象者と協力員の認識の違いによるトラブルも発生している。地域によっては地域住民で自主的な見守り活動を行っている地域もあり、地域の自主性・地域力を尊重している。										A
	介護保険サービス・障害福祉サービス、そのほか配食サービスなどフォーマル・インフォーマルサービスの利用による副産物的な見守り体制もできている。令和6年度からは障がい者の買い物支援サービスを開始し、見守りの体制を拡充している。										R4
	・残された課題、KPI達成のため必要な取り組み										C
	<u>①課題</u>										R5
	見守りネットワーク活動は、地域住民の協力や理解が必要であり、なおかつマンパワーが必要である。地域によっては高齢化が進み、協力員となるマンパワーの不足も課題となっている。限られた人材の中でのマッチング調整の必要性。										C
<u>②必要な取り組み</u> ※達成の場合はさらなる効果を生むための取り組みを記載										R6	
見守りネットワーク活動だけでなく、SmartGOTOやICT等の活用とフォーマル・インフォーマルな制度を組み合わせることで安心できる地域づくりにつながると思われる。見守り活動が可能な地域については地域住民へ必要性を説明し取り組んでもらう。										C	

2次評価委員会からの評価・意見等

「みんなでささえるプラン」に基づき、関係団体等と連携し、高齢者や障がい者の見守り活動を推進し地域福祉推進拠点の整備や体制強化を引き続き図って行く。自助・互助・共助・公助の「地域共生社会」の実現を目指し、ICT、デジタル技術なども活用することで効率的かつ持続可能なともに支えあえる社会の構築を目指す必要がある。